

# 子牛価格最高値を更新

「純血」主義で市場から高評価

■筆者プロフィル  
わたなべ・ひろなお  
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。

高値に沸く子牛競り市。価格動向が市場関係者の注目を集めている

「バブル景気」のころ、但馬牛は史上最高価格を更新し続けたが「平成不況」になるとかつてない苦境に陥った。肉が安くなっただけではな

兵庫県職員として但馬牛の担当になったころ、農家から「牛の相場は千日相場」と聞いた。それを先輩に話すと「ヤトルサイクルというんだ」と教えてくれた。

子牛の価格が安いと牛飼いをやめる農家が増えて子牛が減り、値が上がる。子牛の値が上がると農家は牛を増やすから、子牛が増えて安値になる。雌子牛が成長して子牛を産み、出荷できるまで3年かかるので、価格上昇が3年ほど続くと下降に転じる。こういったことが繰り返され、「牛の相場は千日相場」となった。

入肉の量が増え、品質も良くなってきたことから、消費者の選択肢は広がり、高級肉である但馬牛の値段は景気の影響を強く受けるようになつた。

兵庫県職員として但馬牛の担当になったころ、農家から「牛の相場は千日相場」と聞いた。それを先輩に話すと「ヤトルサイクルというんだ」と教えてくれた。

子牛の価格が安いと牛飼いをやめる農家が増えて子牛が減り、値が上がる。子牛の値が上がると農家は牛を増やすから、子牛が増えて安値になる。雌子牛が成長して子牛を

産み、出荷できるまで3年かかるので、価格上昇が3年ほど続くと下降に転じる。こういったことが繰り返され、「牛の相場は千日相場」となった。

兵庫県職員として但馬牛の担当になったころ、農家から「牛の相場は千日相場」と聞いた。それを先輩に話すと「ヤトルサイクルとい



## 地域の宝

但馬牛物語

★3★

い。全国の产地は発育が早く、肉量が多い系統を求めるようになり、成長が遅くて小さい但馬牛は種牛としての需要も失い、他県の牛より安くなつた。こうなると「県外の血統を入れるべきだ」という声が出

1999年に子牛生産、肥料農業をはじめ家畜商、食肉事業者、貝原俊民知事、谷洋一農林水産大臣を巻き込んで大議論に発展した。1年あま

りの論争の末、今後もよその血統を入れず、但馬牛にこだわることになった。種雄牛の作り方も、系統や体型重視から能力を重視するように変わった。しかし種雄牛ができるまでには10年近い歳月を要する。「それまで但馬牛はどうか」という不安に包まれていた。

菊俊士井、福芳士井、鶴丸士井という3頭の種雄牛が現れ、この窮地を救つた。そして今、その息子たちが種雄牛として活躍している。1頭の但馬牛が生産する肉量は1割以上増え、肉質も高規格の割合が飛躍的に増えた。さらに2012年から輸出が始まり、海外でも但馬牛、神戸ビーフは好評で、輸出量は年々倍近く増えている。

但馬牛の子牛価格は再び史

渡辺 大直

牛肉の輸入自由化以前、輸入牛肉は少なく、品質も悪かつたから、日本人は大半が国产牛肉を食べていた。そういうこともあってか、需要はほぼ一定で、子牛価格は主に供給量の影響を受けた。

ところが自由化されると輸入肉の量が増え、品質も良くなってきたことから、消費者の選択肢は広がり、高級肉である但馬牛の値段は景気の影響を強く受けるようになつた。

（C）新日本海新聞社 無断複製・転載を禁じます